



3.11から10年、あの日を思い返す。

——鳥が一斉に奇妙な飛び方をしたと思ったら、底から唸るような地響き。踏ん張っても立ってられず、まるで踊らされているようだった。

これは、10年前の3月11日の出来事を、10年前の私が記した日記の一部である。父の実家がある白河市で書いたものだ。被災後、相馬に帰れずに避難先として滞在していたのだ。日付は2011年3月17日(木)、地震から6日後である。

2011年3月11日(金)、私は時間講師として勤めていた双葉高校の勤務を終え、富岡に住む友人に会いに行く途中の、富岡町夜ノ森地区の農道で、たった1人で被災した。そのときのことをつらつらと、思いつくまま書いてみようと思う。

——目の前の家がしなって瓦がボロボロと落ちるのを目の当たりにして、今私は大災害に遭っているんだということを認識した。本震がおさまったあとすぐに救急車や消防車が私の前を通過し、私も建物倒壊を恐れながらこれから会う予定だった〇〇を助けに行った。

その後、私は友人と落ち合い、アパートの駐車場で「大津波が来る」というラジオのニュースを聞く。大津波、と言われても、海から離れた高いところにいる私たちは危機感もなにもなかった。地震の直前にたまたま買っていたシュークリームを2人で食べながら、とりあえずなんとなく富岡のスポーツセンターに向かった。案の定、人がたくさん避難していて、やっと人ごみの中に自分の身を置いてホッとした記憶がある。

それから夕方になり、「富岡二中の体育館に移動しますのでバスに乗ってください」と言われ、1人でいたおばさんとともになんとなく3人で体育館に行った。体育館はちょうど午前中に卒業式が終わったばかりで紅白幕がまだ垂れ下がっていて、椅子が散乱していた。そんな状況の中、我が物顔で自分たちの陣地と言わんばかりにありったけの荷物を広げてテリトリーを広げる人もいた。場所取りで喧嘩する人もいた。こういうときに人の本性というのは出るのだな、と思いながら、ステージ前方左側になんとか座って…それから余震のたびに悲鳴にも近いどよめきを聞きながら…そうしたら夜ノ森在住の教え子を見つけて、その子から毛布とトイレトイレットペーパーを分けてもらった。なんとなく、それが必要になる気がしたから。(実際、その後このアイテムが最強だった)体育館はあっという間に満杯になった。ステージ上が本部になって、町役場の人や有志の若者が我々に備蓄していたアルファ米の食料を配った。その人たちに向かって「いったいどうなってるんだ!」「いつまでこの状況は続くんだ!!」「きちんと説明しろ!」と怒鳴る町の人たち。不毛だよな、とは思ったが、それくらいこの体育館は恐怖や焦燥に包まれていた。トイレは水も流れないし停電して真っ暗だ。皆でケータイの画面で個室の上から照らし、中にいる人が用を足す仕組みになっていた。臭気に嘔吐きながらトイレに入った記憶がある。

教え子や同僚も体育館にたくさんいて、「6国(ろっこく)のヨークまで水が来た」「津波で富岡駅は消滅した」と、彼らをとおして初めてこの地震の恐ろしさを実感した。当時私は相馬市の実家で父と2人暮らして(母は2年前に死別した)、一瞬だけつながったケータイで父の安否は確認できた。しかし、一緒にいる友人は誰とも連絡がつかずに青ざめていた。なんとなく一緒にいたおばさんも、たまたま浪江に住む娘に会いに宮城だかどこからか来ていた人である。彼女も娘と連絡がつかずにいた。そのとき、ちょうど私の教え子で「K」という卒業生の男子が近づいてきて…その子は本当に最後まで手を焼いた生徒だったが、不安に包まれた空間でニコニコしながら、私の友人やおばさんの話し相手になって張り詰めた気持ちをほぐしてくれた。そして…Kのおかげでなんと私はそこで熟睡ができた。あの中でクウクウと寝息を立てて寝ていたのは、10年経っても語り継がれている。これが私の3.11だ。少なくとも当日の夜、私の周りの人たちは「原発」のことなどまったく頭にはなかった。とにかく寒くて、不安で、でも明日はどうやって相馬に帰ろうということを考えていた。前日の夜、友人たちとご飯を食べてゲラゲラ笑っていたことを、繰り返し繰り返し思い出しながら。大津波が多くの命を奪ったことも、この相双地区が、「フクシマ」と変貌を遂げた福島が、世界中から注目を浴び、これから自分たちが目に見えない恐怖にさらされることになることも、まさか考えるはずもないのである。

震災で価値観は大きく変わった。震災前日までの感覚は、もうない。ただ思い出すのは、前日の夜に何の憂いもなくたくさん笑って過ごしていた、あの幸せな時間である。では、今が不幸なのかというと、そうではない。10年経って私は教員採用試験に合格し、家庭もできた。震災がなかったらその後の人生は変わっていたかもしれないが、もはやナンセンスなifである。私たちはもう、震災があった世界の住人である。痛みを抱えながら、目に涙をためながら、それでも生きていかなければならない。相双地区に生きている私たちには、それぞれの10年間のストーリーがある。10年経って、あえて口に出すことは少なくなったが、久しぶりに29歳の私の日記を読んで思いがあふれた。あのときに会ったすべての人が、10年経ったこの空の下で、笑って暮らせていることを願うばかりである。

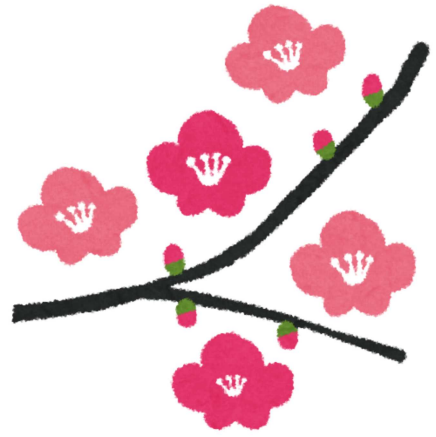
(1組担任 星 充子)



の行事予定

- 15日(月) 前期選抜合格発表【生徒休業】
- 16日(火) 小論文模試⑦
- 18日(木) 進路ガイダンス⑥⑦
- 19日(金) 終業式
- 22日(月) 後期選抜
- 23日(火) 後期選抜合格発表
- 26日(金) 新入生オリエンテーション
- 30日(火) 離任式、教室移動

※新学期:4月8日(木)／課題テスト(国数英):4月9日(金)



2年生に向けて、準備はOK?

コロナ休校があって、いろんな学校行事が延期&中止になった1年間でした。やれることがやれなくなったことが多かったですが、不平不満を言わず、今置かれた環境でベストを尽くしていこう!という気持ちが見られたのは、本当に素晴らしいことだったと思います。そんな慌ただしい1年生がまもなく終わり、いよいよ中堅学年である2学年に進級します。後輩もでき、部活動でも活躍の場面が増え、学校行事も盛り上がる、高校3年間の中で一番楽しい日々です。皆さんが充実した日々を送れるよう、まずは「やらなければいけないこと=学習」をきちんとやれる人になってほしいと思います。

1. 学習時間と環境の確保

成績上位の人ほど、平日2時間以上／休日3時間以上の時間を確保しています。また、時間だけではなく、学習をする環境の整備も大切です。自宅だけではなく、学校や公立の図書館なども活用して自分がじっくり取り組める環境も確保しましょう。

2. 学習開始時間の設定

なんとなく〜く学習を始めている人はいませんか?学習習慣をつけるために、毎日「〇時からやる」と決めるといいです。特に春休みは、午前中の頭が冴えているときに学習を始めてみましょう。部活動がある人も、夜遅くにならないようなるべく早めの午後から始めると、生活習慣も乱れないと思います。

3. 優先順位を決める

あれもこれもは、人間できません。苦手なものを後回しにしていたとしたら、まずは「克服したい課題」から始めてみましょう。また、春休みの課題は1年生の復習なので、答えを写して終わりにならないように余裕を持って始めましょう。

4. 関連をつかみながら学習する

どの教科も、習ったことがそれぞれ独立しているわけではありません。習ったことどうしを関連させていくことが、大きな学びを得ることになります。春休みは1年生の総復習をしながら、今までの学習がどうつながっているかの確認をしましょう。

※進研模試の結果が届きましたが、結果はきちんと確認しましたか?小問の分析をして、何ができなかったのかを確認したら、問題をもう一度解いて理解を深めるようにしましょう。わからないことは、必ず先生に聞くようにしてください。